令和５年４月 19 日

保護者のみなさまへ

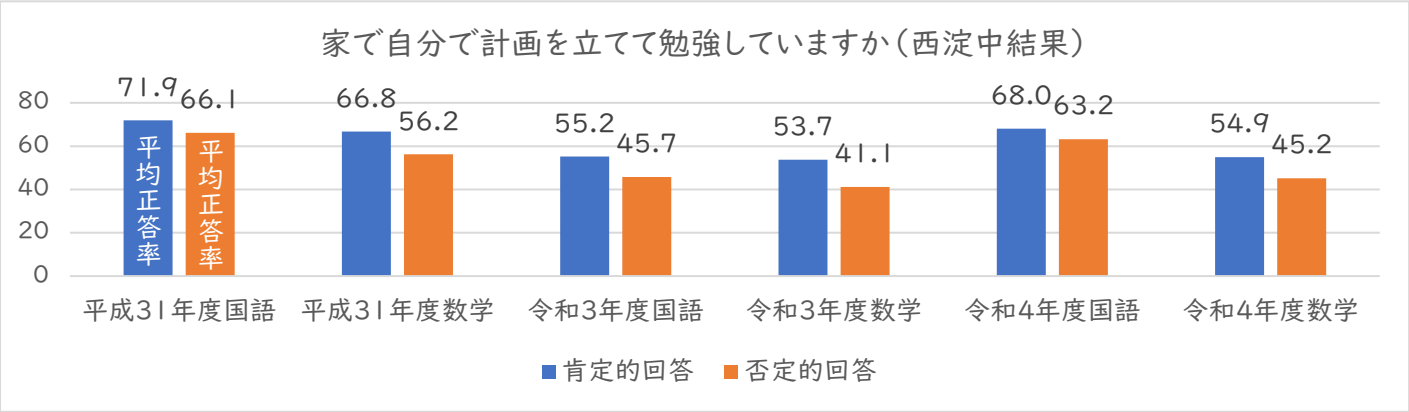
大阪市立西淀中学校
校長　田野原　千佳

ほかべん（放課後学力向上勉強会）の開催について

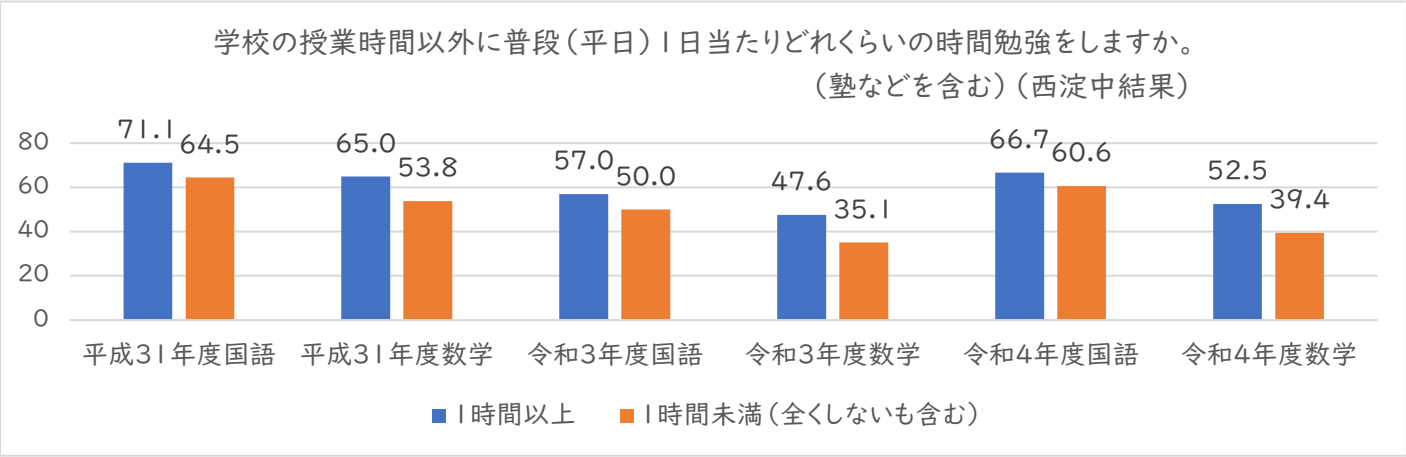
平素は、西淀中学校の教育活動に対し、ご理解・ご協力を賜りありがとうございます。

現在、本校では落ち着いた学習環境の中、生徒一人一人が授業に熱心に取り組んでいるところです。しかし、コロナ禍をはじめテクノロジーの進化、世界情勢の急激な変化などの影響もあり、子どもたちを取り巻く環境が激変している今、子どもたちはさまざまな変化に柔軟に対応できる「生きる力」を身につける必要があります。その「生きる力」を身につけるにあたって、「学力の向上」はその重要な要素の一つであります。

本校の過去３年間の全国学力・学習状況調査の結果をご覧ください。なお、各グラフにある数値は「肯定的回答（左側）」および「否定的回答（右側）」をした生徒の平均正答率となっています。

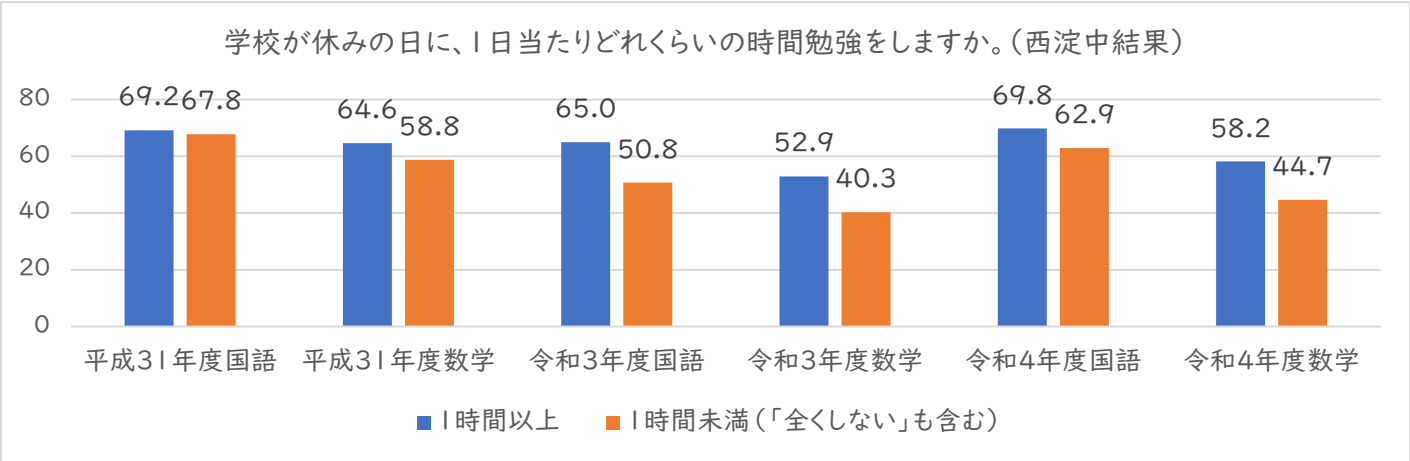


「家で自分で計画を立てて勉強をしている」生徒の平均正答率が高くなっています。令和３年度数学では、12.6 ポイントの差があります。続いて、家庭学習時間はどのような影響があるでしょうか。



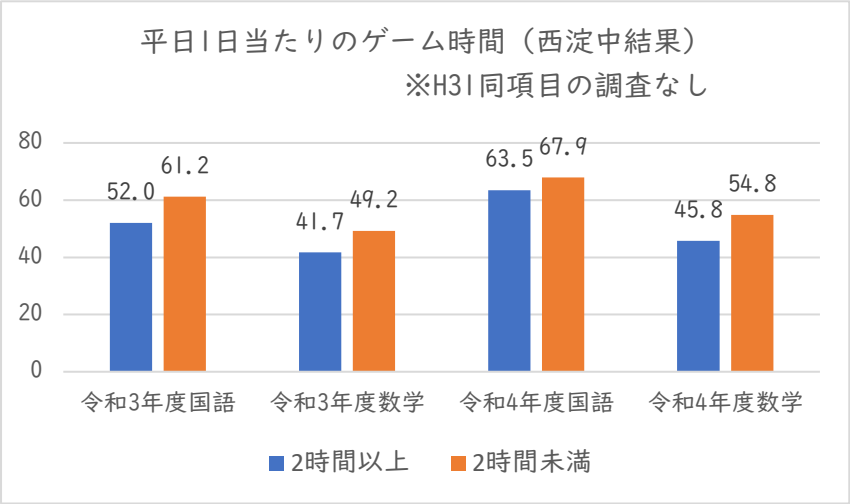
平日の家庭学習時間が１時間以上の生徒と１時間未満の生徒を比べた結果です。最も大きく差が出ているところでは、令和４年度数学で 13.1 ポイントの差があります。過去３年間の結果を見ると、国語では約 6.6 ポイント、数学では約 12 ポイントの差があり、年々その差が開いてきています。これは数学が「積み重ねの教科」であり、授業中に学習した内容について類題を反復学習することで理解が深まるため、家庭学習時間が長い生徒ほど理解力が上がり、結果が反映しやすいと考えられます。

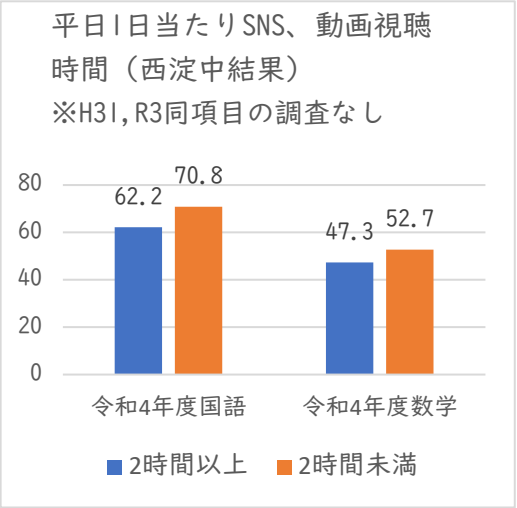
では、休日の学習時間と平均正答率はどのような相関関係があるでしょうか。



平成31年度国語の結果を見ると、大きな差がないものの、数学では、過去3年で平均約10ポイントの差がみられます。このことから、継続した学習時間が学力に大きな影響があることがわかります。

また、家庭でのゲームの時間や、SNSや動画視聴の時間はどのような結果をもたらすのでしょうか。





ゲームやSNS,動画視聴に費やす時間については、2時間以上とそれ未満の生徒の平均正答率の差は、上記のとおり、国語・数学ともにで平均約7ポイントの差があります。

これらの結果から、

①自主的に学習すること　②家庭学習の時間を確保すること　③ゲームやSNSの時間を決めること

の3点が、学力向上に対する大きな要素となっていると考えられます。

家庭学習時間の目安として、「学年×10分」とよく示されています。つまり、中学1年生(7年生)は「70分(1時間10分)」、2年生は「80分(1時間20分)」、3年生は「90分(1時間30分)」を家庭学習の時間とするとされています。

本校では**「放課後学力向上勉強会(通称「ほかべん」)」**を昨年度より**放課後や長期休業中に実施**しています。この放課後学習を通して、「自主学習習慣の確立」をめざし、継続した支援ができるよう取組を進めてまいります。

新学習指導要領には、「これからの社会が、どんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。」と改訂に込められた思いとして記されています。この放課後学習会を通して、自主的な学習習慣を身につけ、これからの時代に必要な「生きる力」の獲得の一助となることを期待します。